

平成17年度病害虫発生予察特殊報第1号

平成17年9月12日
鳥取県病害虫防除所

- 1 病害虫名 アワダチソウグンバイ *Corythucha marmorata* (Uhler)
- 2 作物名 ヒマワリ(キク科)、キク(キク科)、カンショ(ヒルガオ科)
- 3 発生確認地域 鳥取市、八頭町、岩美町
- 4 発生確認の経過
 - (1) 平成17年6月下旬、鳥取県農業試験場内においてセイタカアワダチソウに多数寄生するグンバウムシを発見した。本虫が、他府県で発生が報告されているアワダチソウグンバイに酷似していたため、8月上旬から下旬にかけて現地巡回調査を行ったところ、鳥取市、八頭町および岩美町においてヒマワリ、カンショ、キクへの寄生加害を確認した。
 - (2) 本虫を、神戸植物防疫所経由で門司植物防疫所に同定依頼したところ、本県では未確認のアワダチソウグンバイであることが判明した。本種は、北米からの侵入害虫であり、国内では平成12年に兵庫県西宮市で初めて発生が確認された。その後、大阪府、京都府、奈良県、三重県、滋賀県、徳島県、岐阜県、愛知県、香川県、岡山県で発生が報告されている。
- 5 形態及び生態的特徴

成虫の体長は約3mmで軍配に似た形状をしており、体周縁部に多数の棘を生じ、前翅に特徴的な褐色斑がある(写真3)ことから、日本産の他のグンバウムシとは容易に識別できる。幼虫は全身褐色の紡錘形をしており、集団で寄生していることが多い。主にセイタカアワダチソウに寄生加害するが、密度が高くなると周辺のキク科雑草や農作物にも寄生し、被害を及ぼすと考えられる。
- 6 作物への被害状況

本虫の吸汁によって、葉に白いかすり状の脱色斑を生じさせる。(写真1、写真2)また、葉裏には黒い粘液状の排泄物がみられる。被害が甚だしい時には下葉から枯れ上がり、枯死に至る場合もある。

7 寄生植物

セイタカアワダチソウ等のキク科雑草、ヒマワリ、キク等のキク科作物、カンショ。

8 防除対策

ほ場周辺に群生するセイタカアワダチソウなどのキク科雑草は、本虫の発生源となるので早期に除草を行う。しかし、多発してからの除草は、本虫をほ場へ追い込む恐れがあるため注意が必要である。

現在、本虫に対して登録のある農薬はない。



写真1 カンショの被害



写真2 キクの被害



写真3 アワダチソウゲンバイ成虫